

認知症バリアフリー情報交換会・交流会 実施報告書

2025年2月26日

日本認知症官民協議会

認知症バリアフリーWG 事務局

1. 事業の背景・目的

- 令和4年度の老健事業において実施した、認知症バリアフリー宣言企業・団体を対象に実施したヒアリング調査では、「認知症本人、家族のニーズを取得する機会」や「登録企業同士の情報交換の機会」を求める声があがっていたことを受け、令和5年度に、第1回の認知症バリアフリー情報交換会・交流会を開催した。
- 今年度も、基本法で掲げられた「共生社会」の実現に向け、認知症バリアフリーに取り組む企業・団体同士の密な情報交換、関係構築を図っていただくことを目的に、日本認知症官民協議会に参画する団体や、厚生労働省が進めている「認知症バリアフリーWG」関連企業・団体に加え、経済産業省が進める「認知症イノベーションアライアンスWG」関連企業等にも声かけを行い、認知症バリアフリー情報交換会・交流会を開催した。

2. 実施概要

日程	2024年12月19日（木） 情報交換会：13時00分～15時00分 交流会：15時10分～16時00分
場所	TKP新橋カンファレンスセンター ホール16D 住所：東京都千代田区内幸町1-3-1
開催方式	<ul style="list-style-type: none">・ 情報交換会：現地＋オンライン配信のハイブリッド・ 交流会：現地開催
参加者	<ul style="list-style-type: none">・ 認知症官民協議会参加団体・ 認知症バリアフリーWG関連企業・団体・ イノベーションアライアンスWG参加企業・ 認知症バリアフリー宣言企業・ オレンジイノベーション・プロジェクト参画企業・ 自治体 他・ 厚生労働省・ 経済産業省

3. 当日の参加者数

自治体・介護事業者・当事者団体への周知、Webサイト「なかまある」での周知等を行い、現地101名、オンライン313名が参加した。

■ 情報交換会

参加者数（合計）：414名 ※昨年度144名

- 現地会場参加者：101名（登壇者、関係者含む）※昨年度77名
- オンライン参加者：313名（事前申込者ベース）※昨年度67名

企業以外に、自治体、介護事業者、当事者団体、認知症のある方および家族、報道関係者など幅広く参加

■ 交流会

参加者数：91名（現地会場参加のみ、関係者含む） ※昨年度63名

4. 当日のプログラムおよび登壇者

時間	演題等	演者
13:00~13:15	開会挨拶及び厚生労働省における認知症関連施策の動向	<ul style="list-style-type: none"> 厚生労働省 老健局 認知症総合戦略企画官 (認知症施策・地域介護推進課地域づくり推進室 長併任) 遠坂 氏
13:15~13:30	経済産業省における認知症関連施策の動向	<ul style="list-style-type: none"> 経済産業省 商務・サービスグループ ヘルスケア産 業課 企画官 小野 氏
13:30~13:40	本人から企業へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> 藤枝市在住 永井 氏 藤枝市地域包括ケア推進課 横山氏
13:40~13:50	家族から企業へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> 公益社団法人認知症の人と家族の会 代表理事 鎌田 氏
休憩 10分		
14:00~14:20	～認知症の方の迷う不安を解消する徒歩ナビ～ かんたん操作徒歩ナビ ツギココ	<ul style="list-style-type: none"> トヨタ自動車株式会社 山田 氏 福岡市福祉局ユマニチュード推進部認知症支援課 矢野 氏
14:20~14:35	共生社会の実現に向けた豊橋鉄道グループの取組み	<ul style="list-style-type: none"> 豊橋鉄道株式会社 赤川氏
14:35~14:50	本人の声からはじまるまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> 株式会社イトーヨーカ堂 小山 氏 DAYS BLG!はちおうじ 志田 氏、水野氏、守谷 氏
14:50~15:00	『認知症バリアフリー』への取組み	<ul style="list-style-type: none"> 株式会社セブン&アイ・フードシステムズ 牧野 氏
15:00	閉会挨拶	<ul style="list-style-type: none"> 経済産業省 商務・サービスグループ ヘルスケア産 業課 企画官 小野 氏
休憩 10分		
15:10~16:00	交流会	

5. 情報交換会の発表概要

演題	発表概要
厚生労働省における認知症関連施策の動向	<ul style="list-style-type: none"> 厚生労働省 遠坂企画官より、共生社会の実現を推進するための認知症基本法の概要及び、当事者参画・バリアフリー・社会参加・相談体制についての方針等についての紹介が行われた。
経済産業省における認知症関連施策の動向	<ul style="list-style-type: none"> 経済産業省 小野企画官より、オレンジノベーション・プロジェクトの取組およびオレンジノベーション・アワードについての紹介が行われた。
本人から企業へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> 永井氏（認知症当事者）横山氏（藤枝市地域包括ケア推進課）より、普段の活動の紹介を通じて、企業へのメッセージをいただいた。
家族から企業へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> 鎌田氏（公益社団法人認知症の人と家族の会）より、認知症発症による生活の大きな変化や本人・家族の気持ちについての説明と当事者参画の観点から企業へのメッセージをいただいた。
～認知症の方の迷う不安を解消する徒歩ナビ～ かんたん操作徒歩ナビ ツギココ	<ul style="list-style-type: none"> 山田氏（トヨタ自動車株式会社）から企業取組について紹介が行われ、矢野氏（福岡市福祉局ユマニチュード推進部認知症支援課）より認知症フレンドリーシティ・プロジェクトとして福岡オレンジパートナーズなどの取組の紹介が行われた。
共生社会の実現に向けた豊橋鉄道グループの取組み	<ul style="list-style-type: none"> 赤川氏（豊橋鉄道株式会社）より、企業取組や認知症に関する取組の社内展開について紹介が行われた。
本人の声からはじまるまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> 小山氏（株式会社イトーヨーカ堂）より、企業取組や、東京都八王子市での認知症当事者との協働事例について実際参画した志田氏、水野氏、守谷氏（DAYS BLG!はちおうじ）と共に紹介が行われた。
『認知症バリアフリー』への取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 牧野氏（株式会社セブン＆アイ・フードシステムズ）より企業取組や、自治体との連携について紹介が行われた。

- ※当日の講演資料については官民協議会のウェブサイトで公開

6. 交流会の様子



- 情報交換会終了後、同会場にて交流会を開催した。
- 会場の前方ではオレンジイノベーション・プロジェクト参画企業3社によるPRプレゼンを実施した。
- 会場の後方では下記展示を行い、新しい認知症観の普及啓発を実施した。
 - 「認知症とともに生きるわたし」写真展
本人が尊厳を保持し、希望を持ちながら生活する日々のワンシーンを収めた写真や「個性と能力を発揮しているシーンを収めた写真」などを展示
 - 「認知症の人からの手紙展」
認知症のある方に「これから認知症になる方へ」宛てた書いていただいた手紙を展示
- その他、オレンジイノベーション・プロジェクトの製品・サービスの紹介コーナーや「認知症バリアフリー社会実現のための手引き」の配布を行った。

写真展

「認知症とともに生きるわたし」

認知症になっても、人生の主人公は、わたし。
靴も履いて、社会の一員として、希望をもって暮らしています。
できなくなることよりも、できることを目指し、
やりたいことにチャレンジしていきます。
それがきっと、いいひと稱、いい一日、いい人生へとつながっていく。

この写真展では、認知症とともに生きる人々の人生の
一瞬を切り取った写真を展示して、
みなさんに、「新しい認知症観」を感じていただければと思います。

写真の企画を練ったのは、若年性認知症当事者の方です。
かつてはフリーのお客さまをされていたこともある方ですが、
今の自分だからできることとして、
やさしいまなざしで認知症の神楽を撮影しました。



<フォト>
撮影から、作り出すまで、2019年8月、東京都「アソビ」で認知症と
向き合える、当事者参加型で進んでいる社会実装事業「認知症と向き合える
社会」の一環として、当事者参加型で、写真展「認知症とともに生きるわたし」を開催しました。

「認知症の人からの手紙」展

この展示では、「一足先に認知症になったわたし
たち本人(認知症の人)」から「これから認知症に
なる金での人たちに宛てた手紙を展示しています。
この手紙は、わたしたち本人の体験や思いを言葉
にしたものです。

わたし自身も、自分の力を活かして、大切に
したい暮らしを続け、社会の一員として、楽しみ
ながらチャレンジしています。そうした人が少しずつ
増えてきています。

この展示を通じて、社会に存在する先入観や
偏見が変わっていくとともに、自分や大切な人が
認知症になったときに「大切にしたい暮らし」を
考えるきっかけとなることを期待しています。

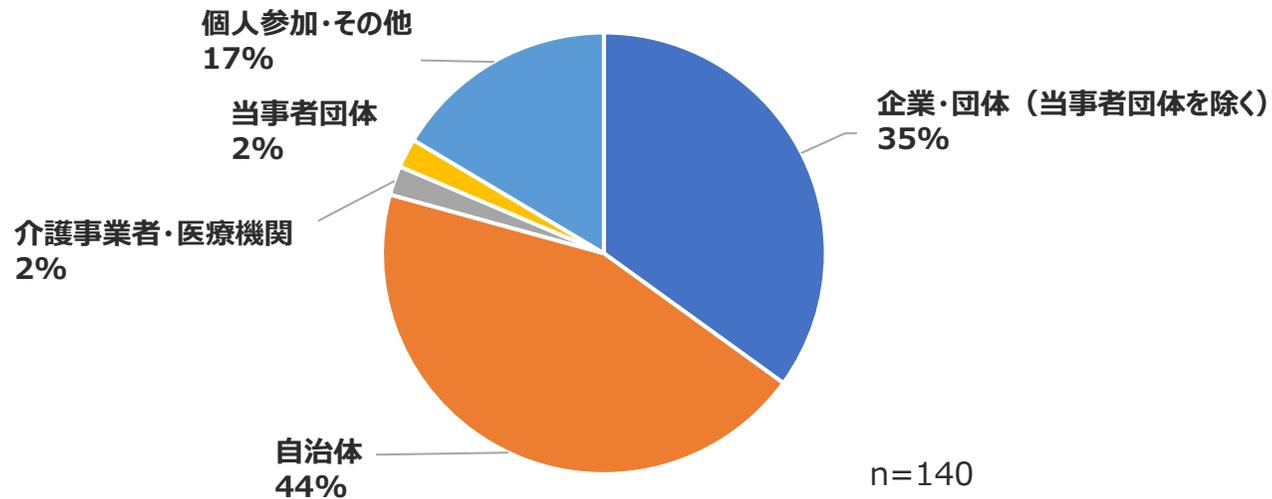
そして、一人でも多くの人が、共生社会に向けた
活動を仲間として一緒に進めてくれることを願って
います。

協力 一般社団法人社会実装推進機構アソビグループ | 1000:社会実装

7-1. 事後アンケート調査結果

現地またはオンラインでの情報交換会参加者に対してアンケートを実施し、140件回収した。

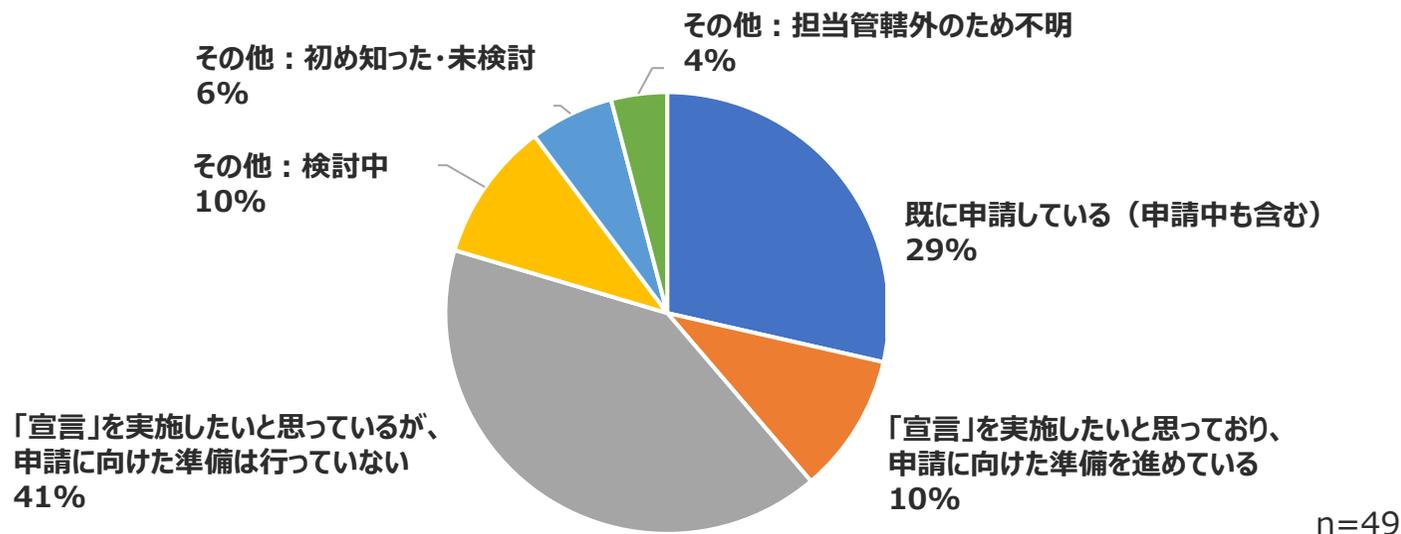
Q あなたのご所属として、あてはまるものを1つ選択してください。



7-2. 事後アンケート調査結果：認知症バリアフリー宣言（企業・団体）

「認知症バリアフリー宣言を実施したいと思っている」と答えた企業・団体が51%いた。

Q 貴社/団体における日本認知症官民協議会「認知症バリアフリー宣言」の実施状況、意向としてあてはまるものを1つ選択してください。



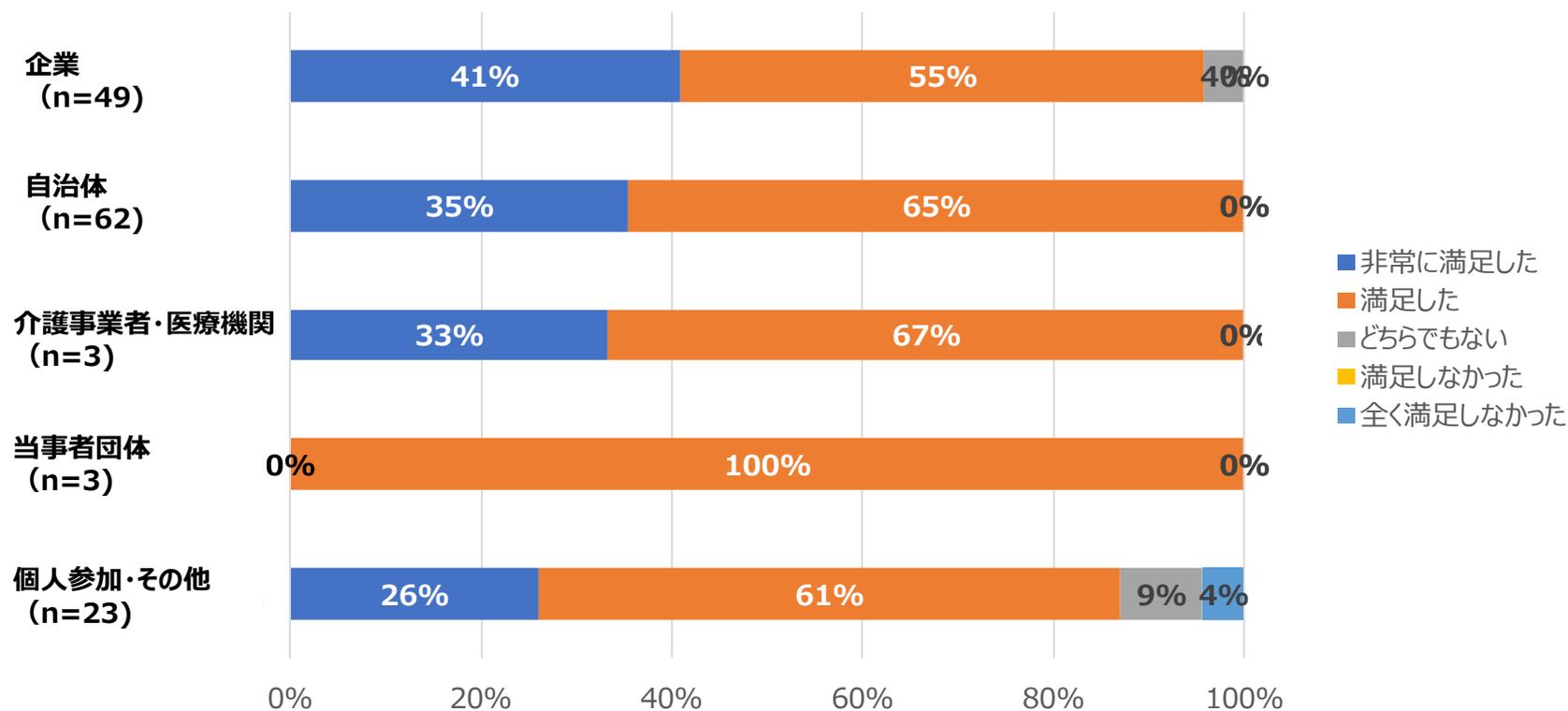
「宣言」を実施したいと思わない理由

- 宣言について、今回初めて知ったため。
- 公益財団法人として宣言の前例がなく、すべきか判断できない。
- 当職の所管ではない。
- 事業所として、もう少し「宣言」の詳細を勉強したり方向性を検討する必要があるため
- まだ何が障壁になるのか把握できていない

7-3-1. 事後アンケート調査結果：情報交換会・交流会の満足度

「非常に満足した」、「満足した」と回答した割合は企業で96%、自治体、介護事業者・医療機関、当事者団体で100%、個人その他で87%であった。

Q 本日の情報交換会・交流会の満足度としてあてはまるものを1つ選択してください。



7-3-2. 事後アンケート調査結果：自由回答（1/3）

企業・団体

- 認知症のバリアフリーについて、企業の取組が進んでいることを具体的な事例を通じて知ることができた。自事業においても、認知症の取組を行っているため、企業と連携する方向で事業を進めていきたいと考えており、参考にしたい。
- 認知症との共生に資する取り組みを検討するにあたり、大変参考になった。
- 各企業の取り組みを知ることが出来て、良い刺激をうけた。これからの、製品作りがより良い物になるようにしていきたい。
- 他の業種、企業の取り組み内容をリアルでお聞き出来たのが良かった。
- 認知症に関わる企業の方、行政関係者、専門職の方などに出会えた。
- 認知症の方の話を直接聞いたことで、オレンジノバージョンプロジェクトの取組意義をよく理解できた。
- 関係者が一同に介して情報交換できた。特に当事者の永井さんの話を聞いたのが勉強になった。
- 当事者として発表に臨まれた永井さんにご挨拶するチャンスをいただき、お困りのことや楽しみなことを冷静にお伝えいただけ嬉し
い時間だった。
- 厚生労働省でも認知症対策プロジェクトを行っていることを初めて知った。
- 大企業ではなく地域に根差す小回りの利く取組をしている地域中小企業の取組にもスポットをあててほしい今回は規模が大きめ
の企業様の発表で、我々中小企業が実証実験などの参考にするには資金面やネームバリュー等、少しハードルが高い。
- 短時間でも質疑応答の時間があっても良いと思った。
- 交流会の場所の広さや時間帯（もう少し遅い時間帯であれば参加が増えるのではないかと推察）を検討いただきたい。
- 交流会については、参加者リストと連絡先、取組状況が分かると、会の後でも交流できるためよい。

等

7-3-2. 事後アンケート調査結果：自由回答（2/3）

自治体

- 国の施策の方向性や、企業の具体的取組みを多く知ることができたことが特によかった。
- 自治体以外の民間の方の認知症への興味関心、参画の仕方を知ることができた。
- 本県では、これまで認知症分野での企業等との協働は実施できていなかったが、本日の情報交換会で各企業や自治体との協働の具体例を紹介いただき、取組のイメージをもつことができた。
- 認知症施策推進計画の考え方や、各企業の取組みなど参考になることが多くあった。市として、認知症サポーター養成講座を受講した近隣の企業等に、積極的に働きかけ企業として取り組んでいただけそうなことを一緒に検討していきたい。
- 企業に認知症サポーター養成講座は実施しているが、その後の連携や協働に繋がっていない状況があるため、参考になった。当事者の参画そして対話を持ちながら進めていければと感じた。
- 第1層生活支援コーディネーターを担っており、企業がどういう取組みをされているのかを知るために参加した。企業は利益を出さないと継続するのは難しいと思うものの、当事者や家族の方からじっくり聞く姿勢で製品を作られており素晴らしいと感じた。
- 自治体職員が足を運んで本人や家族の声を聴くことの重要性について触れて頂いたことが良かった。
- 作り上げた場所ではなく、認知症本人のアイデアや可能性が評価され、フェアに1つの目標に向かって共生、共創できる社会ができることを望む。
- 金融機関の取組みがあれば知りたい。
- オレンジイノベーション・プロジェクトやバリアフリー宣言をしている企業が行政とどのように関りを持ちまたどのような取組みができるのかを知りたい。
- 12月は業務が立て込みやすく会場に足を運ぶことが難しい状況だった。場合によっては地域での開催など検討いただきたい。

等

7-3-2. 事後アンケート調査結果：自由回答（3/3）

■ 当事者団体、個人参加・その他

- 認知症について、各地での様々な取り組みを知ることができ、大変良い学びになった。やはり話し合いの段階から認知症当事者・家族に参画していただくことが大きなポイントになると感じた。
- 情報交換会は認知症当事者の話を聞いて勉強になった。
- 認知症バリアフリーの取組の最前線の情報を知ることができた。
- 当事者の率直なご意見を伺うことができ、また、大手企業の取り組みを知り、いい機会だった。
- 行政や、企業が、思ったより大勢認知症の市民へのボランティアや、買い物へに対応に参加していることに驚いた。認知症が悪化しないように、町に出ることができたらよいなあと思った。
- 若年性認知症になっても仕事を辞めずに続けられそうな雰囲気のある会社が出てきたんだなと感じた。
- 今後、より多くの企業や本人や家族が参画しての取り組みや参画への手法を確認できればと思う。
- 家族の会の相談会、つどいに、本人の参加があり、情報提供したいので今後も続けて欲しい。
- 今後も企業の取り組みを積極的に紹介してほしい。
- 認知症や障害、病気に対し民間企業がかかわるという視点は、ともすると病気や障害を商売にする見方につながり、タブー視されていたテーマだと思う。企業側も売り上げや市場規模、社員の関心という点で前向きになっていないと思われる。国として法律ができたからという説明だけでなく、SDGsやCSR意識の拡散、経営的な後押しやメリットの提示を具体的にお願いしたい。
- アカデミアの参加が少ないことが残念だった。
- 立場がさまざまな参加者同士の交流会だったので、どのような立場で（企業、自治体、その他など）参加されている人なのかがわかるような工夫があると、さらに交流しやすい。

等

8. 情報交換会・交流会の総括および今後の検討事項

今後も情報交換会・交流会の継続的な開催が望まれる。実施に当たっては、登壇する企業の業種や、より多くの方が参画し双方向のコミュニケーションが行えるような工夫について、検討が必要だと考えられる。

情報交換会・交流会の総括

- 情報交換会・交流会ともに満足したという声が多く、今後も継続して開催してほしいとの要望があった。
- 現場の具体的な事例や認知症当事者の方の声を聴いたことへの評価が高かった。

今後の検討事項

情報交換会

- 今後の情報交換会では、地域で取り組んでいる中小企業や、要望の多かった金融機関の取組紹介について検討する。
- より多くの方が参加しやすいよう、情報交換会・交流会の実施時期や時間帯について検討する。
- 発表資料の共有の方法等について検討する。

交流会

- 参加者の情報を共有する等、交流会後の交流や協働を促すような工夫を検討する。
- 認知症当事者の方との双方向のコミュニケーションが行える場づくりについて検討する。
- 相談ブースを設ける等、情報交換会・交流会をきっかけに認知症バリアフリー宣言やオレンジイノベーション・プロジェクトへ参画いただけるような工夫を検討する。